

# 地域政策のパラダイム転換

2004年5月10日

小峰隆夫

法政大学教授 (大学院政策科学研究科)

1. 構造改革の進展と地域政策
2. 日本型地域政策の特徴
3. 地域政策にパラダイム転換を迫る要因
4. 社会資本整備の構造改革
5. 新しい地域政策の方向

# 構造改革と地域政策

鍵を握る「相互補完性」

	日本	アメリカ
雇用	終身雇用 年功賃金	流動的な雇用 能力賃金
企業経営	株式持合い 長期的取引関係	株式の個人・機関投資家保有 アウトソーシング
金融	メインバンク制 間接金融	市場取引 直接金融
教育・人材形成	スクリーニング重視 OJT中心	専門教育 職務のプロ
公的部門	規制と縦割り行政 公共事業依存	NPM 市場メカニズムの活用
地域開発	国主導型 分散重視	州レベル主導 クラスター

# 各分野に共通するストーリー

「日本型特徴の存在」

「経済社会環境との不適合」

「新しいシステムへの模索」

相互補完性の作用

ドミノ倒しの改革の進展

# 地域政策の日本型特徴とその改革

## (1) 中央中心の発想

横並び、陳情主義

地方分権、地方主体へ

## (2) 公共事業中心

財政制約で実現不能に

政策割り当ての整理へ

## (3) 集中抑制・分散促進（国土の均衡ある発展）」

過度の結果の平等

集中のメリット重視へ（クラスターの発想）

# パラダイム転換をもたらす環境変化

(1) 少子・高齢化の進展

(2) 産業構造の変化

(3) バブルの崩壊となくなった土地神話

(4) デフレの進行と都市再生

# 人口構造の変化と地域

## (近年のトレンド)

1. 地方部から都市圏への人口集中
2. 東京への一極集中
3. 都市部で顕著な少子化傾向
4. 都市部におけるパラサイトシングル化

## (将来の展望)

1. 地方部での極端な人口減少
2. 大都市圏での高齢化の進展 コンパクトシティの発想、高齢新人類はどんな都市を望むのか

# 産業構造の変化と地域

## 1. サービス化の進展と地域構造

規模の経済が大きく作用するサービス産業  
集積の利益の高まり

## 2. IT革命と地域

ITは集中を加速させるのか、分散をもたらすのか

分散説 遠隔地でも情報を入手できるから、リモート・オフィス、自宅勤務が可能となる

集中説 情報の生産が集中する

暗黙知 (フェイス・トゥー・フェイスでないとは伝達できない知識、顔を見て話していて初めて思いつくアイデアなど)は集中形式知 (文字や映像で伝達できる知識)は分散

# バブルの崩壊となくなった土地神話

都心の地価の下落によるマンションの増加

土地付持ち家主義は変わるか

居住地選択のモビリティ

農業の活性化

# デフレの進行と都市再生

## 都市再生のマクロ経済学

### 日本経済のマクロ的課題

- (1) 需給ギャップによるデフレ
- (2) 民間投資の不足による貯蓄投資バランスのゆがみ
- (3) バブルの崩壊による資産価格の下落
- (4) 財政金融政策の行き詰まり

## 都市再生の意義

- (1) 財政負担によらない民間投資の増加策
- (2) 地価の下落を生かした資産効率の上昇
- (3) 都市の国際競争力向上による海外直接投資の流入

# 公共投資の日本型特徴

1. 経済に占めるシェアが大きい  
特に、地方での依存度が大きい
2. 社会資本整備という本来の目的以外にも使われてきた 景気対策、所得再分配（ハンディキャップ地域対策）
3. 供給効果より支出効果を重視してきた

# 日本型特徴の相互補完性

## 三つの日本型特徴の相互補完性

- 高いGDP比率 他の目的にも利用 (政策的モラルハザードの発生) 削ろうとすると「地方を見捨てる」景気が悪くなる」という合唱
- ハンディキャップ地域政策、景気政策は支出効果に期待 高いGDP比率
- 政治的プロセスとの関係も 族議員と官僚との相互依存関係

# 公共投資の新モデルを求めて

1. GDP比率は徐々に引き下げる  
都市部への配分を増やし、メンテナンス中心に
2. 政策割り当ての理論に従った政策手段の整理  
ハンディキャップ地域対策、景気対策は別個に
3. 供給サイドを重視して効率化  
PFIの活用  
「インプット評価」から「アウトカム評価も」

# 特区の経験から学ぶこと

## 特区の狙い

- (1) 全国的な規制緩和の突破口
- (2) 地方主導の活性化

## 特区の現実的機能

- (1) 実質的な条件付規制緩和の実現
- (2) 苦情申し立て機関的役割

# 欧州の経験から何を学ぶか

ヨーロッパにおける調査 (2004年 3月 )の経験から

## (1) ブロック計画の重要性

ヨーロッパにおけるRegional Development Agency

## (2) 後進地域対策の効率化

EUの構造政策基金の配分

## (3) クラスターの発想の重要性

研究機関との連携、多様な主体の参加、地域資源と歴史を生かした独自の発想、ネットワークの有利性、信頼などのソーシャル・キャピタルの重要性

# モビリティの重要性を考える

人口減少と物理的モビリティの重要性の高まり  
交通手段の整備と公共サービスの集約  
化

構造改革の進展と社会的モビリティの高まり  
教育機会、職業、居住地選択などにおいて  
やり直しのできる社会へ」

# 新しい地域政策の方向

ランダムに方向性だけをリストアップしてみると

- (1) 中央から地方へ
- (2) 国レベルからブロック・レベル重視へ
- (3) 計画・官庁主導型から市場・民間主導型へ
- (4) 横並び型開発から地域資源を生かした地域間競争へ
- (5) 格差是正からある程度の格差容認へ  
(地方重視から都市重視へ)
- (6) 分散から選択的集中へ
- (7) 地域固定型からモビリティの重視へ
- (8) 財政配分型から政策割り当てを踏まえた効率的な政策へ